

第4回 村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議 議事要旨

日時 ■ 2020年（令和2年）10月6日（火）午後2時から午後4時

場所 ■ 藤沢市役所 分庁舎6階 6-3会議室

出席者 ■（敬称略）

会長：柳沢 厚

副会長：中島 直人

委員：（五十音順）相澤光春、饗庭功、加藤直人、佐保田俊英、竹村裕幸、
額賀健一、林岡治、林喜太郎、堀敏之、松窪 昌幸（代理）、三上雅之、
三ツ井幸子、渡場清治、渡辺敬介

オブザーバー：鎌倉市

事務局：都市整備課

傍聴人数 ■ 4人

議事次第 ■ 1 開会

2 議事

① 中間とりまとめについて

② まちづくりを進める上での重要テーマごとの方針等について

③ 官民連携スキームの考え方について

3 その他

4 閉会

配布資料 ■ 【資料1】村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議の目的及び検討の流れ

【資料2】村岡新駅周辺地区まちづくり方針（中間報告）

【資料3】まちづくり方針（案）を構成する重要4テーマについて

議事概要 ■

① 中間とりまとめについて

事務局より資料1を用いて、今後の進め方について説明。

資料2を用いて、第3回会議以降で、「村岡新駅周辺地区まちづくり方針（中間報告）」をまとめるにあたって、修正等を行った箇所等についての説明を行うとともに、6月市議会・建設経済常任委員会で報告を行ったことなどについて報告。

② まちづくりを進める上での重要テーマごとの方針等について

事務局より資料3を用いて、「まちづくりを進める上での重要テーマごとの方針と方向性」について説明。

ご意見等（項目に分けて整理しています）

[重要4テーマ（1）創造的な場づくりについて]

- どんな人が暮らすのか、具体的な居住者像を明確にした方が良い。
- これからのまちの在り方として、昼間人口と夜間人口の差、ウィークデーとウィークエンドの差があまりなくなる。
- 都市空間の中で、ルールや施設があらかじめきっちり決まっているのではなく、余白的空間で暮らす人自体が何かを生み出せる仕組み・仕掛けが人々の創造性を掻き立てるためには重要。
- ヘルスイノベーション拠点という観点から、スポーツという切り口も融合させてはどうか。（術後患者のリハビリ施設、アスリートの養成施設等）
- 村岡周辺には、スポーツに力を入れている企業も多いので連携してはどうか。
- 「場づくりや仕掛けを地区全体に配置し」とあるが、どのように考えたらよいのかイメージ出来ない。ここに住民がどのように関わって行くのかもまだ見えない。
- iPark と湘南鎌倉総合病院が隣り合った偶然を活かして最先端のヘルスイノベーション拠点にしたい。
- 住む人・働く人・訪れる人の三者がヘルスイノベーションを追求し実現できるまちになると良い。
- 人々が集まってお互いに議論しあい触発し合って、そこから何か生まれるような場を作ることが実現したいこと。

[重要4テーマ（2）緑や文化豊かなまちづくりについて]

- 同じ緑でも、それぞれみどりの役割・在り様が異なるので、個々にもっとはつきり描かれる方が良い。
- 鎮守の森は標高もあるので眺望的な場所としても期待できるのではないか。
- 高さ関係が分かるように断面で示すともっとみどりの繋がり（軸）が分かりやすいのではないか。
- シンボル道路が敷地内を通るので、周辺緑化を地域住民と一緒に手掛けることもあり得る。
- 兜松についても地域の資源として維持管理していく等、みどりは地域の大事な財産なので維持管理を考えて頂きたい。

- 鉄道の両側にまとまった緑があるのだから、これが分断されない状況をどうやって作るかが課題。

[重要4テーマ (3) 新しい交通結節点づくりについて]

- 「新しい」という言葉が曖昧で分かりにくいので、「どんな」という核部分をもっと具体的に書き込んだ方がよい。
- 駅単独では地域のまちづくりはなかなか実現出来ないのでは、一体となって考えていきたい。
- 藤沢駅は観光地ふじさわの顔でありながら近年大型店舗の撤退が相次いでいるので、新駅は藤沢駅との関係性も考慮しないと市全体がしぼんでしまうことになり兼ねない。
- 南北間の分断問題として、現在の跨線橋は車が一台片側通行できる程度のものなので、南北の交流・移動を考えると人はもちろんのこと車が交互交通できるような通路が必要ではないか。
- 村岡には外国人も多く居住しているので、既存の貨物線路を利用して羽田空港と繋げるなど、海外との行き来が容易にできるモビリティが出来ると良いのではないか。
- 通勤・通学などの日常生活に必須な移動の利便性を高めるのはもちろんのこと、散策などのフリーに動き回ることをいかに重視するかがポイントであり、創造性にも繋がるのではないか。

[重要4テーマ (4) 安心・安全なまちづくりについて]

- AI 技術を導入した自動警備システム等、最先端技術の実証実験の場としたらどうか。
- 事業所が柏尾川に面しているのでは、水害時の BCP について地域住民と協働して考えていく必要がある。
- 柏尾川は昔から有名な暴れ川で、過去に何度も氾濫をしており、土地の水はけも非常に悪い地域なので、水害についてしっかり織り込んで欲しい。
- 具体的なレベルが見えない。時間降水量水準は必ず達成するなど、目標を設定しないと伝わらない。

[まちづくり全体について、その他]

- 鎌倉市側の考え方と整合が取れているのか。
- 新駅設置による利便性向上コロナのような大きなアクシデントがあった時でも市民が楽しく豊かに暮らせるためには、藤沢市が安定した行政運営で体力をつけることが重要である。
- 市民同士や団体同士の繋がりも大切である。

- 深沢地区との関連性を十分にイメージしてまちづくり方針をまとめることが重要である。
- 新駅の目の前に事業所を構える事業者として重要な役割があると感じている。
- 各ステークホルダーとの関係を大切にして事業を行っていかうと考えている。
- 来年で 60 周年を迎える事業所なので、60 年間支えて下さった地域の皆様と今後も良い関係を保ちながら事業を継続できるよう考えている中で、今回のまちづくりは良い機会だと捉えている。
- 深沢地区と一体的に考える必要がある。
- 住む方と働く方の共通イメージがまだ見えにくいので、今後もう少し議論が深まって行くと良い。
- 経済部としては新駅周辺の企業誘致や経済効果の視点で取り組んでいきたい。
- 土地利用や施設立地に対して、都市計画で誘導する制度などで支援ができる。
- 駅を作ることが大きな目的だが、駅にはまちをつくる力があるので、単純に電車に乗れるだけではない豊かな方針を作ってまちづくりを進めていきたい。
- 色々なことを包含しているがゆえに、このまちらしさが見えにくくなっている部分がある。
- 住む人・働く人・訪れる人がどういう割合であるのか、それが他のまちとはどう違うのかが整理できるとこのまちの目指すものが分かるのではないか。
- まちを継続的に運営、更新していく手法として、複数の街でアーバンデザインセンターを設置している。アーバンデザインセンターは官民に加えて大学が入るのが特徴で、大学が常に新しい研究をして動かしてくれるので面白いまちづくりが出来る傾向にあるため、この地区でもぜひチャレンジして欲しい。

③ 官民連携スキームの考え方について

事務局より、資料 3 を用いて、官民連携スキームの考え方について説明。

まとめ（会長）

- 各テーマの方針が示されたが、何がしたいのかがわかりにくい。明確に、「なにをするのか」「なぜやるのか」を示した上で、「どういう方法でやるのか」を示して欲しい。

以 上